

総合科学技術会議の審議状況について

平成 24 年 8 月 1 日から平成 24 年 11 月 28 日までの、総合科学技術会議本会議における審議状況は以下のとおり。

平成 24 年 8 月 31 日（持ち回り開催）（第 104 回）

○ 総合科学技術会議が実施する国家的に重要な研究開発の評価について（決定）

総合科学技術会議が評価対象として指定する「東北メディカル・メガバンク計画（『健康調査、バイオバンク構築、解析研究』）」についての評価結果が報告され、原案通り決定されるとともに、総合科学技術会議から文部科学大臣に対し評価結果が通知されることとなった。

平成 24 年 11 月 2 日（第 105 回）

○ 科学技術イノベーションを巡る課題～ノーベル生理学・医学賞受賞を契機として～

京都大学 iPS 細胞研究所所長 山中伸弥教授より、「科学技術イノベーションを巡る課題」というテーマで、研究支援人材の安定的雇用の必要性や iPS 細胞を用いた再生医療に係る規制上の課題等について説明がなされた後、意見交換が行われた。

※ 内容は総合科学技術会議ホームページ掲載資料等を基に作成

総合科学技術会議（第105回）議事次第

平成24年11月2日（金）
17：20～18：00
総理官邸（4階大会議室）

1. 開会

2. 議事

- (1) 科学技術イノベーションを巡る課題
～ノーベル生理学・医学賞受賞を契機として～
- (2) その他

3. 閉会



※第105回総合科学技術会議 資料1より抜粋



資料1

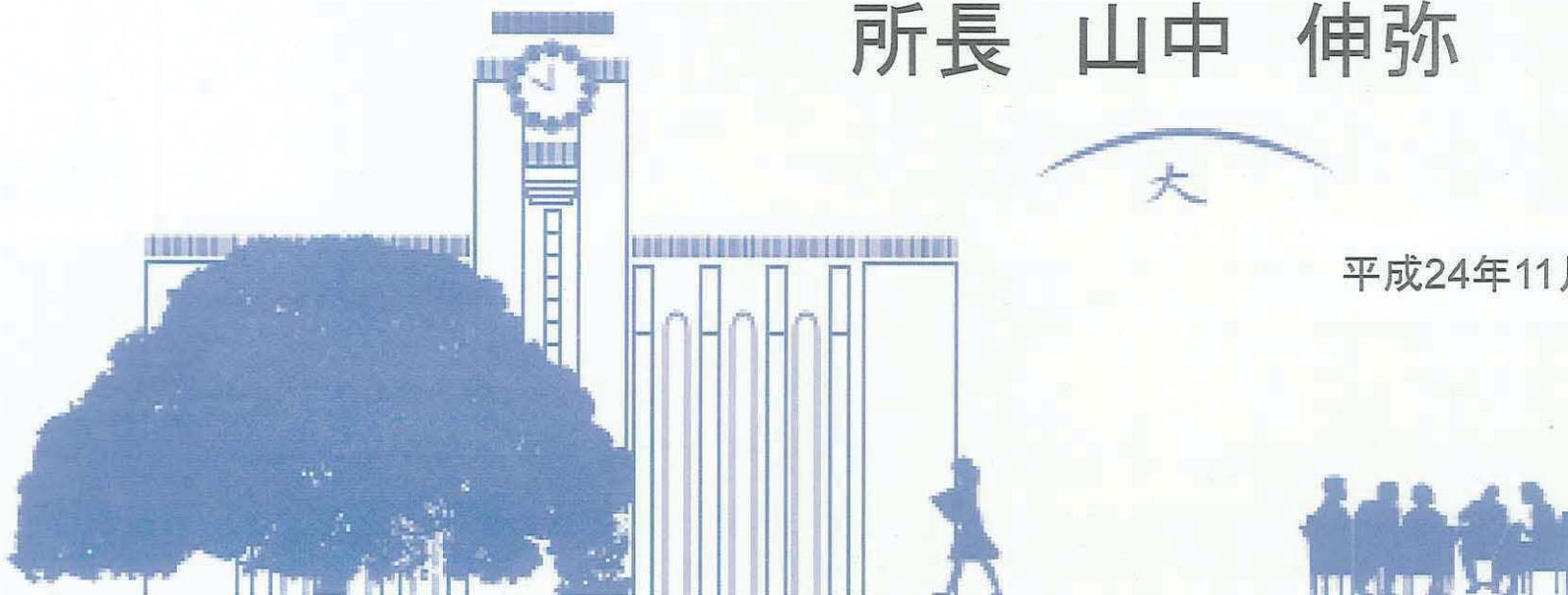
科学技術イノベーションを巡る課題

京都大学iPS細胞研究所
Center for iPS Cell Research and Application
(CiRA)

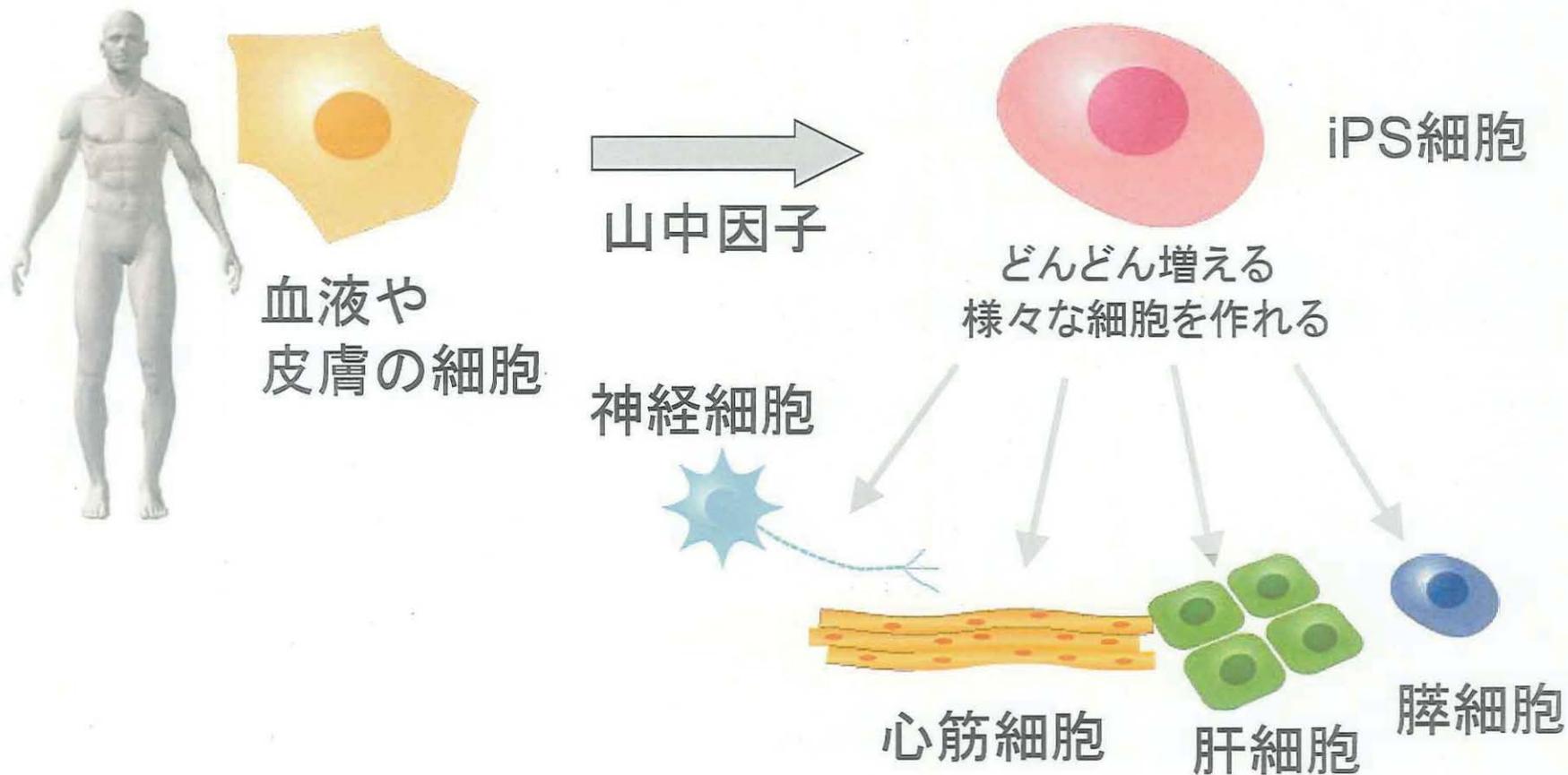
所長 山中 伸弥

大

平成24年11月2日



国に支えられたiPS細胞の発明



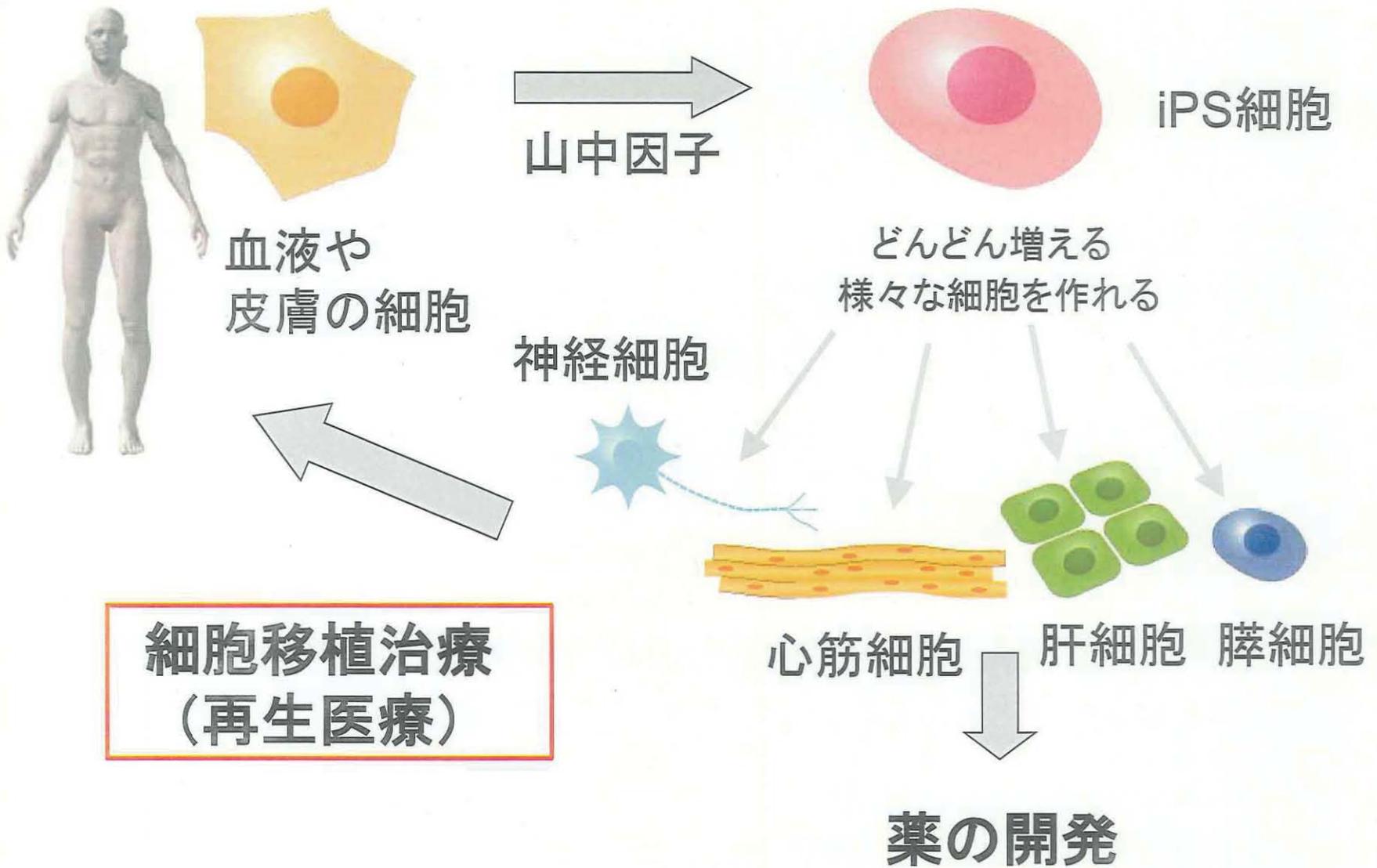
人工多能性幹細胞 (Induced Pluripotent Stem Cell)

マウス:2006年

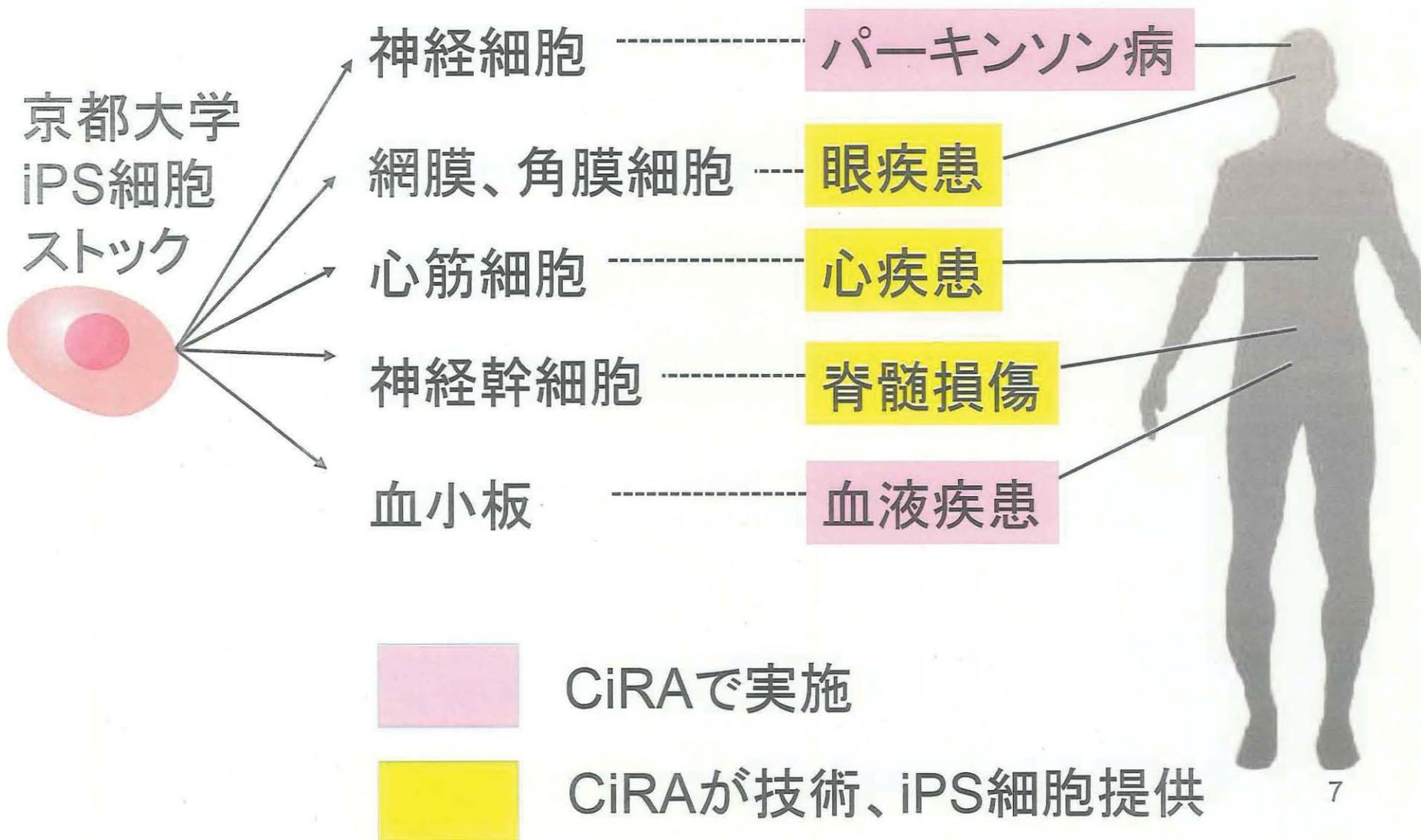
人間:2007年

JST/CREST 2003年度～2008年度

iPS細胞：何が出来るか？



臨床研究が近い再生医療



資金面での課題

前臨床研究、臨床研究、治験には20年近い時間かかる

⇒ 切れ目のない長期的ご支援が必要

⇒ 研究開発に必要な人材の安定的雇用が必要

規制上の課題

ヒト幹細胞研究指針ではストックの概念が無い

⇒ iPS細胞ストックが移植に使えるか担保されていない

ヒト幹細胞研究指針および生物由来原料基準
では細胞採取の前に同意取得が必要

⇒ 既存の臍帯血がiPS細胞の原料として使用できない

同意書が国内外で統一されていない

⇒ 海外への供給、海外ストックの使用ができない

産業面での課題

研究機器、試薬の大部分が外国製

⇒ 国産化が望まれる

移植細胞(血小板など)の大量生産が必要

⇒ 産業界のご支援が必須

疾患モデル、創薬に関する課題

再生医療に比べて研究費支援が少ない

⇒ 各省庁が一体となったご支援を

製薬企業との連携も限定的

⇒ 連携を進める仕組み作りをお願いします

第105回総合科学技術会議議事要旨（抜粋）

【野田総理大臣】

今日御説明頂いた課題というのは、iPS細胞を活用して、再生医療を実現するか、新たな治療薬を開発するという課題ではあると思うのですが、それに留まらず、科学技術イノベーションを推進する上での、ある種普遍的な課題だと受けとめなければならぬと思いますし、その課題を克服することが、第2、第3の「山中教授」を我が国から次々と生み出していく、その環境整備になるのではないかと受けとめさせて頂きました。

その上で、3点、政府が一丸となって推進してほしい取組を指示させて頂きたいと思います。

第一に、iPS細胞を用いた再生医療を実現する為に、次期通常国会で薬事法を改正するなど関連法制の整備を行うとともに、安全規制面での基準整備、倫理面の検討を加速すること。

第二に、日本の研究の中核となる大学などにおいて研究環境の大胆な改革を進め、必要な研究支援人材群の確保を進めること。

第三に、独創的なアイデアや技術を持つ若手研究者を育成・発掘するため、新たな採択方式の採用など、研究費の改革を行うこと。

このような取組を通じまして、国家戦略の主要な柱である科学技術イノベーションを強力に推進し、iPS細胞を更にサポートしていきますが、それに続く、新たなイノベーションを幅広い分野で生み出していくように皆様と共に知恵を出していきたいと思っております。